



吉崎 芳美

今からでもできる環境に優しい生活

他人ごとでは済まされない地球温暖化

現在、地球規模で検討すべき課題の一つが「地球温暖化」です。このままでは、今後100年間で二酸化炭素濃度は現在の2倍以上になり、地球の平均気温は1.4～5.8℃上昇すると考えられています。

最近、昔に比べて夏は暑くなり、冬は暖かくなってきたと感じる方もおられるのではないのでしょうか？ しかしながら実際には、現在の平均気温は50年前と比較してわずか0.5℃ほどしか上昇していないのです。今後100年間で、その約10倍以上の気温上昇が予測されていることを考えると、世界が協力して地球温暖化に対する対策を講じる必要があると考えられます。」京都議定書「は先進国の温室効果ガス排出量を減らす目的で定められた法律ですが、しかし、2003年度の二酸化炭素排出量をみると、1990年度と比較して産業では0.3%、家庭では31.4%の増大が認められています。特に家庭における著しい二酸化炭素排出量の増加を抑えるために、

私たち一人ひとりがこの問題に対し真剣に取り組んでいく必要があると考えられます。そこで私は、私たちができる地球温暖化対策と東浦町が行っている取り組みについて調べてみることにしました。

東浦町 ISO14001取得

東浦町は役場庁舎やその他の公共の施設においてISO14001を取得しています。ISO14001とは、1992年の地球サミットにおいて取り決められた環境に関する国際標準規格のことであり、企業活動全般により生じた環境に対する負荷の軽減などに関与して定められています。つまり、東浦町役場庁舎やその他の公共の施設では、環境に対する悪影響を最小限にとめられるように努めているのです。

資源ゴミの分別が地球温暖化を抑制

私が東浦町に引越してきて最も驚いたことの一つは、ゴミの細かい分別



リサイクルされたペットボトルの山

もったいない！

愛知万博において、東浦町とフレンドシップ事業を結んでいたユニア出身のフナリ・マータイ氏(ユニア環境副大臣)は1977年に有志と「グリーンベルト運動(非政府組織)」を創設し、植林運動を開始しました。植林運動はアフリカ大陸全土に広まり2004年ノーベル平和賞を受賞。2005年2月の来日時に日本語の「もったいない」に出会い、日本人の「もったいない」の考え方が、環境問題を考えるに心ざわしい精神だと感銘したといいます。マータイ氏は地球環境を守る世界共通語として「もったいない」を世界各地で訴えています。日本人の美德であるといわれている「もったいない」の心を、いま一度思い出し環境に優しい生活を始めてみませんか？

ゴミの減量を努めること、資源ゴミの分別を徹底すること、と取り組まれています。私は、この2点については私たちが最も取り組むべきことだと思っています。

「ゴミ減量対策

「ゴミの約80%は容器包装廃棄物であると言われています。東浦町内某ショッピングセンターでは、「ゴミ減量対策の一つとして「マイバック運動」を実施しており、実際にレジ袋の削減に成功しているそうです。2001年度中に4269万枚、石油ドラム缶2000個、約7376杯分を自身も積極的にこの運動に取り組んでおり、取り組み前と比較して1か月で約30枚のレジ袋をもらう枚数が減り、「ゴミの排出量が減少したことを実感しています。左が1枚のレジ袋ですが、比較的簡単に、

多くの人々が取り組むことができると、二酸化炭素排出量の削減で大きな効果が得られるのではと考えています。

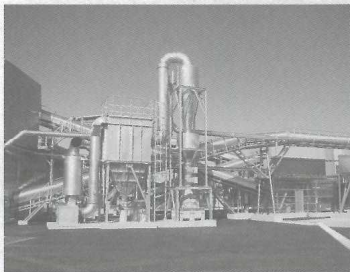
施設見学問い合わせ

・ トーエー株式会社
03(63)38800
03(63)38800
担当 徳島

・ 東部知多グリーンセンター
02(46)88855

食品トレーなどに加工されていることなどを学びました。そして最も驚かされたのは、それらの行程の多くが手作業で行われていたことでした。このような努力が資源「ゴミ」の有効利用につながり、焼却処分などによる二酸化炭素の排出量を抑えられるのだと思いました。見学の後には、職員の方から「資源ゴミ回収日以外の日に資源「ゴミ」を出される方がおられて大変困っている」という話を聞きました。このことは、地球温暖化に対してどういふすべしといった以前の問題であり、もっと責任のある行動をとれるようにみんなが意識を高めていく必要があると思っています。

次に私は、事業の一環としてガラス製品の資源リサイクルを行っているトーエー(株)見学に行ってみました。ガラス再商品化施設に行くと、家庭や企業から排出されたガラス「ビン」が、砂状の「リサイクルガラス造粒砂」に加工されている様子を見学させていただきました。加工された「リサイクルガラス造粒砂」は天然の山砂の代わりに路床材や地盤改良材などとして使用されるようで、この技術によりこれまで埋立てに利用されていた山砂採取量を軽減し、そ



トーエー(株)のガラス再商品化施設

の結果として二酸化炭素を吸収してくれる自然の野山を保護することができるようになりました。ガラス再商品化施設は見学可能であり、「家庭から出る資源「ゴミ」がどのように処理されているかを理解するだけでなく、東浦町民一人ひとりが地球環境を大切にする意識が高まるのでは」とおっしゃっていました。みなさんも一度見学されてみてはいかがでしょうか？

最後に、東浦町の可燃「ゴミ」の処理を行っている東部知多グリーンセンターに見学に行き、市民レベルでできる地球温暖化対策について質問してみました。担当の方は、二酸化炭素排出量を削減するために、①「